

刊行にあたって

多数の会員と若干の客員のご協力により、本学会年報第7号『ナショナリズムと教育政策』を刊行することができました。まずは執筆者各位に心からお礼を申し上げます。

本号の特集テーマは、「ナショナリズムと教育政策」といたしました。近代公教育体制の成立・展開以降、ナショナリズムの問題は教育政策はもとより、教育の理論、実践、運動においてもきわめて重要なイシューになってきたことは周知のとおりです。したがって、この特集テーマは決して斬新なものとはいえないでしょう。しかし第二次大戦後、いわゆる地球時代が到来して以来、さらには20世紀末の東西冷戦体制の崩壊をへて、ヒト、モノや情報などのグローバル化がさらに激しく進行するであろう21世紀を目前にしている現在、この問題は再び三度、新たな内実と緊張をはらんだ焦眉の理論的、実践的課題として私たちの前に突き出されてきています。国内外の政治、経済、社会、文化そして教育の諸動向を一瞥すれば明らかです。「ナショナリズムと教育政策」はさまざまな新しい論点を内包したテーマであるといえます。

本号の特集はこうした問題意識のもとに編まれました。このテーマの解明にどのように迫るのか、いかなる切り口の論稿を編むのが必要なのか、適切な執筆者は誰かなどについては、編集委員会でも苦労したところです。お二人の客員執筆者のご協力を得て収録した5本の論稿はいずれも力のこもった労作です。会員はもとより学会外の多くの読者に読んでいただき、この興味ある、しかし一筋縄ではいかないテーマをめぐる論究がいつそう深化することを期待しております。

本号には、第6回大会の報告、投稿、内外の教育政策・研究をめぐる動向、書評・図書紹介などが満載されております。特集論稿とあわせてご一読下さい。

末筆ながら、いろいろとご無理をお聞き届けて下さり、素晴らしい年報に仕上げていただいた、八月書館の尾下代表、編集担当の伊藤さんに対して心より感謝を申し上げます。

2000年3月30日

日本教育政策学会年報編集委員会
委員長 三上昭彦